

# BMMixer Manual(JP) 1.50

# BMMixer

BMMixerは、TECHLIFE SG Pte.Ltd.が提供するOSX向けのアプリケーションです。Blackmagic Design社が発売するIntensity Extremeもしくは、DeckLink Quad、そしてATEM TV Studioでの動作確認を行っております。

主に大きく2つの機能を持っています。

1つ目は、Intensity Extremeもしくは、DeckLink Quadなどの複数の入力を選択し、2つの入力をミックスして、出力が出来るミキサー部があります。

2つ目は、ATEM TV Studioをリモートコントロールするスイッチャー部があります。

ミキサー部は、8入力に対応しており、2系統のいずれかの映像をもしくは2つの映像を混合した状態で送出するようになっております。入力の種類として、BMD社が提供するキャプチャデバイス、もしくはSyphon(<http://syphon.v002.info>)に対応しております。各入力フォーマットにつきましてBlackmagic Design社の仕様書、もしくはSyphonのサイトをご確認ください。

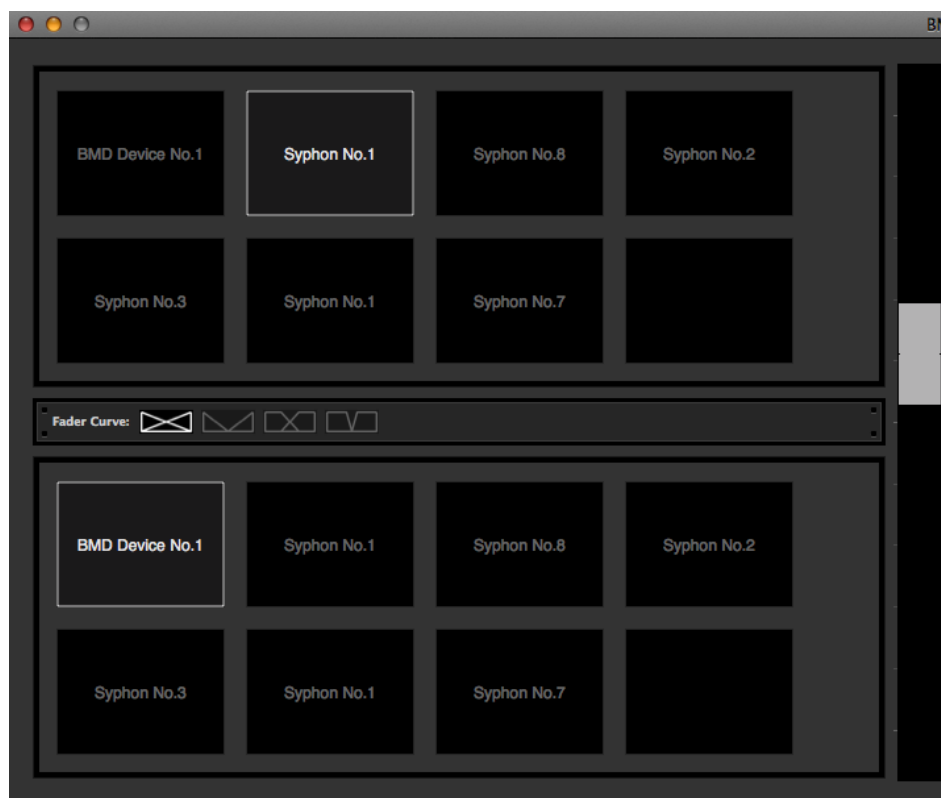
スイッチャー部は、最大10入力に対応したスロットを持ち、それらからプログラムとしての選択、プレビューとしての選択を行えます。またそれらをミックスするTBarもリモートコントロールする事が出来ます。

映像出力は、出力デバイスに依存します。基本フルスクリーンで送出するため、現状の解像度設定、フレームレートによって決定されます。Syphonでの出力は、出力ウィンドウサイズの解像度と合わせられます。また、出力デバイスとしてBlackmagic Design社のデバイスを選択出来るようにしました。ただし、入力と同時に出力が行えるかは、デバイスの種類とドライバによって変わります。FullDuplexをサポートしていないと表示される場合には、同時に入力と出力を使用することが出来ません。詳細につきましては、Blackmagic Design社のサポートにお問い合わせすることを強くお勧め致します。

# How to use?(Mixer)

ミキサー部は、画面左側がそれに当たります。8つの格子状のスロット（ソーススロット）が上下に用意されています。上、下どちらでも入力ソースをアサインしますと、反対側にも自動的に反映されます。

基本操作として、クリックでソースを選択し、右側のバーでミックス具合を調整します。

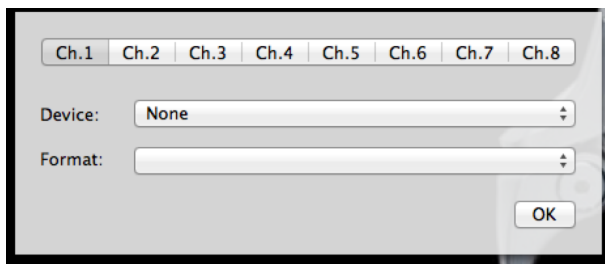


Fader Curveより、ミックス具合のカーブを変更出来ます。現在、4つの中から選択出来ます。

なおスロットAは下の段で、スロットBは上の段を示します。MIDI設定、キーアサインの際には注意してください。

# Channel Setting

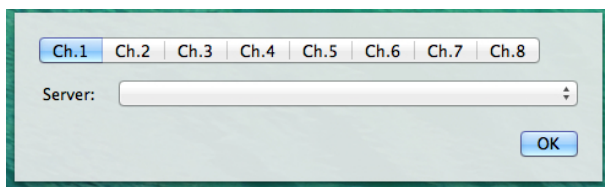
ミキサー部では、初めにチャンネルの設定を行う必要があります。Settingメニューより、BMD Deviceもしくは、Syphonを選択し、設定を行います。BMD Deviceに関しては、DeckLink Quad 2 枚差しでの 8 入力の動作検証を確認しております。該当するデバイスとそのフォーマットを正確にあわせてください。事前に、Blackmagic Media Express等のBMD純正のアプリケーションで、正しく信号が届いていることを確認し、そのデバイス名とフォーマットを設定してください。



**Blackmagic Media Express等との同時起動は避けてください。**

**デバイスの取り合いになりますので、必ずどちらかのみを起動するようにしてください。**

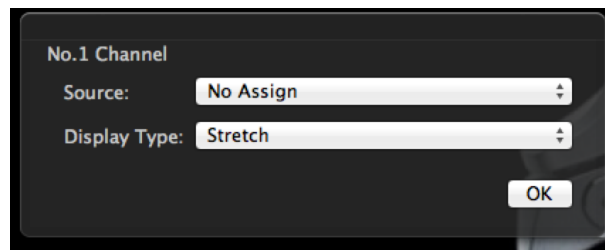
Syphonは単純にSyphonサーバを選択してください。こちらは最大8つのサーバをチャンネルとして選択出来ます。



Syphon Setting

# Source Setting

ソースのアサインは、メインウィンドウのソーススロットを右クリックし、ポップアップメニューを開きます。メニューのSetting...を選択し、ソース設定ダイアログを表示します。そこで、ソースのチャンネル、表示タイプを選択してください。



# Switcher

スイッチャー部は、画面右側がそれに当たります。10つの格子状のロット（ソースロット）が上下に用意されています。上部はProgramと呼び、下部はPreviewと呼びます。どちらも同じ入力ソースが割り当てられています。

本ソフトウェアでは、Program/Previewでの入力ソースの選択、TBarの変更、Cut、Auto Transition、FadeToBlackの制御が行えます。

プログラムとして送出されている入力ソースは、ソースロットが赤色になり、プレビュー側にあるソースロットは緑色となります。

入力ソースの割当等、本ソフトウェアでサポートしていない機能につきましては、BlackmagicDesign社のATEM Software Controlを使用して設定する事をお勧め致します。

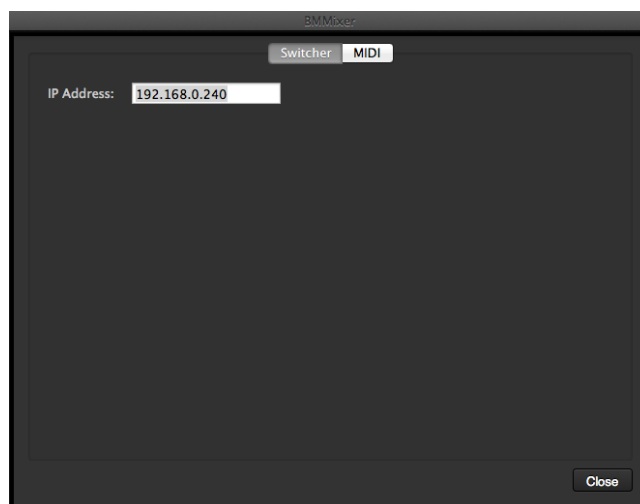


# How to connect?

ATEM TV Studioへ接続するための方法を説明します。まず本アプリケーションを起動する前に、ATEM TV Studioの電源を入れ、ATEM Setup Utilityなどを使用して、対象とするATEM TV StudioのIPアドレスを事前に知っておいてください。

BMMixerのメニューより、Preferencesを選択し、「Switcher」タブを選択すると、以下のようなIPアドレスを入力する項目があります。そちらに、先ほど調べておいたIPアドレスを入力して、「Close」ボタンをクリックします。これにより、ATEM TV Studioへの接続が行われます。問題無く接続出来た場合には、各入力スロットに入力ソース名が表示されます。何か問題があった場合には、メッセージボックスが表示されます。

接続できましたら、Multi-View HDMIをモニタして、選択したソースが有効になるか確認します。また、TBarを上下にマウスでドラッグした際に、ミックスが変化するか確認します。



使用方法として、BlackmagicDesign社のATEM Software Controlと共に起動しておき、本アプリケーションよりMIDI機器と機能をマッピングして、MIDIデバイスでオペレーションします。ATEM Software Controlはバックアップ用の操作アプリケーションとして使用します。

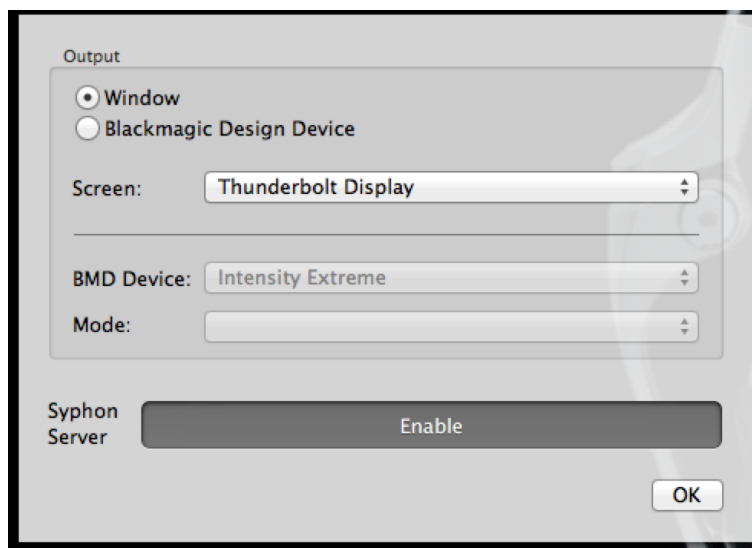
何らかの理由で、ATEMとの接続が切れた場合には、「RECONNECT」ボタンをクリックする事で再接続を試みる事が出来ます。

# Screen Setting

最終出力ウィンドウを選択します。プルダウンメニューには現在接続されている表示デバイスの一覧が表示されます。Movable Windowを選択しますと、通常の640x480のウィンドウとして表示されます。

最終ミックスをSyphonサーバとして、外部アプリケーションに渡すことも可能です。その場合には、Syphon ServerのEnableボタンが押された状態にしてください。その際の解像度はウィンドウのサイズと等しくなります。

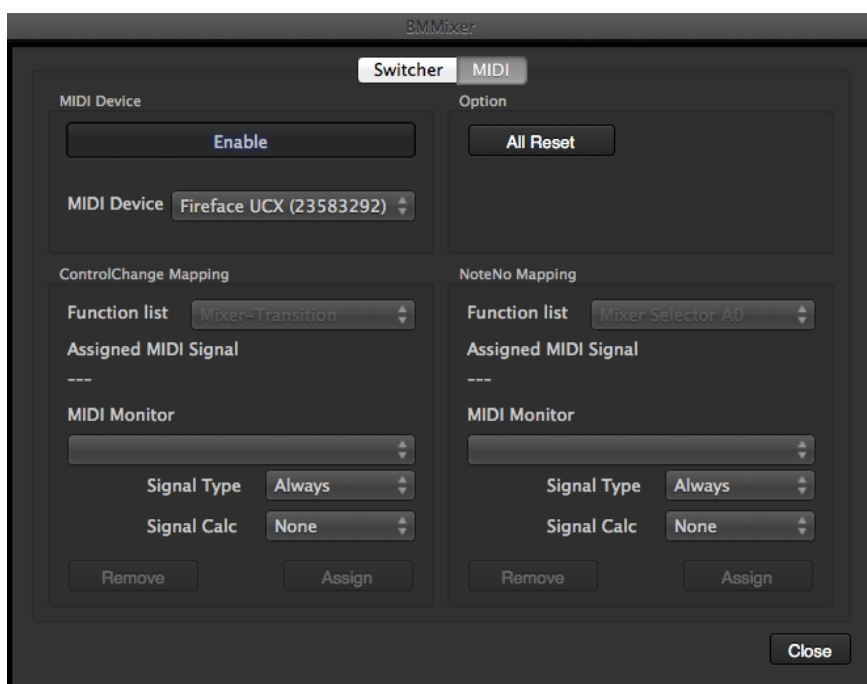
通常のスクリーンデバイスの他、BlackmagicDesign社のデバイスの出力端子からの送出手も行えます。ただし、入力と出力を同時に扱えるデバイスは、幾つかのモデルに限られているようです。Blackmagic Design社への確認を強くお勧め致します。現在確認されているドライバでは、同時に扱えない場合、入力信号をそのままスルーするようです。また、Channel SettingでBlackmagic Design社のデバイスを選択していない場合には、Syphonの出力映像を合成した形で出力します。





# MIDI

本アプリケーションは、各機能をMIDIデバイスにマッピングし、MIDIデバイスから操作する事も可能です。MIDIデバイスを使用するにあたり、事前にMIDIデバイスのドライバのインストールと接続テストを終えておいてください。MIDIデバイスが接続、通電されている状態で、Preferencesの「MIDI」タブより、「Enable」ボタンを押して、MIDIデバイスを有効します。MIDI Deviceプルダウンには、現在認識されているMIDIデバイスが列挙されていますので、使用したいMIDIデバイスを選択してください。



MIDIデバイスとの接続が完了後、MIDIデバイスのつまみやスライダを動かします。すると、それに対応するMIDI信号がMIDI Monitorに表示されます。MIDI Monitorに信号が表示されている状態で、Function listより割り付けたい機能を選択し、「Assign」ボタンをクリックします。既に割り当たっている機能を取り除きたい場合は、該当のMIDI信号を送って、「Remove」ボタンをクリックします。

Signal Typeは、TBarのように連続的な値をそのまま割り当てたい場合には、“Always”をセットしてください。またセレクションのような機能をタップやノートナンバーに割り付ける場合には、“Not Zero”を選択し、ゼロ以外の値が来た時に反応するようにしてください。

Signal Calcは、受信した値を反転して機能に割り当てたい場合に、“Reverse”をセットします。通常は“None”のまま利用します。

全てのMIDIの割当をリセットしたい場合には、「All Reset」ボタンをクリックしてください。

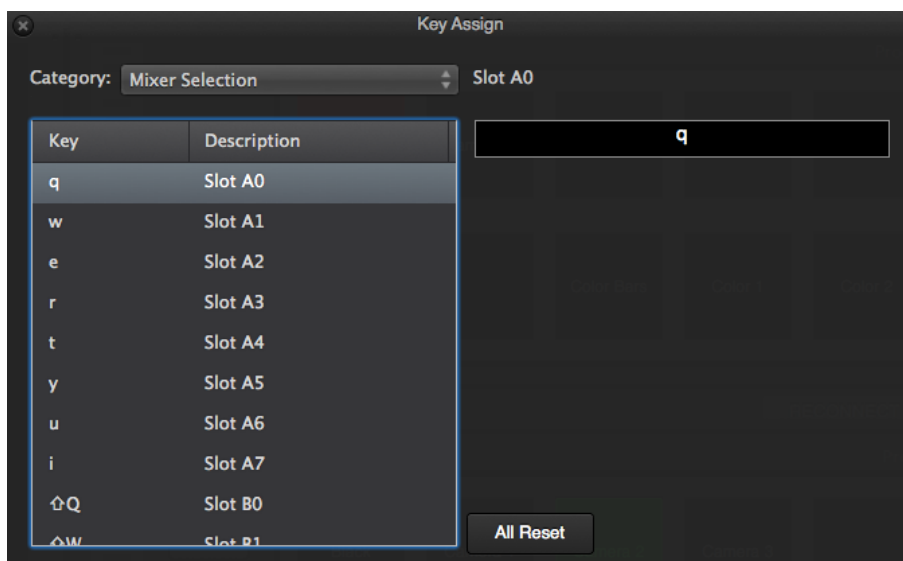
# Key Assign

各機能の呼び出しにショートカットキーを割り当てる事が出来ます。WindowメニューよりKey Assignを選択しますと、キーアサインダイアログが表示されます。

Categoryより分類を選びます。左側のテーブルに現在割り当たっているショートカットキーの一覧が表示されます。変更する際には、対象を選択しまして、右側の黒いエディットボックスをクリックしてから、割り当てたいキーを入力してください。既に割り当たっているキーを割り当てる事は出来ませんので、一度何れにも割当たっていないキーに回避して設定するようにしてください。

「All Reset」 ボタンをクリックするとデフォルトの状態に戻ります。

デフォルトの状態では、ミキサー部のセレクションには、q~iのキーが割り当たっており、Shiftキーとの併用でスロットA（下の段）に対応します。スイッチャー部のセレクションには、a~;のキーが割り当たっており、Shiftキーとの併用でPreview（下の段）に対応します。また、「c」でカット、「z」でAuto Transition、エスケープキーでFade To Blackとなっています。



# File

~Documents/BMMixer\_Dataというフォルダが作成されます。そちらのフォルダ以下に3つのファイルが生成されます。

Common.xml：選択したデバイスの情報が格納されます。

Source.xml：ソーススロットへのアサイン情報が格納されます。

MIDI.xml：MIDIのアサイン情報が格納されます。

各ファイルが見つからない場合は、初期状態のファイルが生成されます。

# Exemption from responsibility

機能に関するご要望やご意見等ありましたら、下記窓口メールアドレスまでご意見等をお寄せください。

[support@techlife.sg](mailto:support@techlife.sg)

また、Facebook上でのディスカッションも行っております。もしアカウントをお持ちでしたら、ぜひ参加をお待ちしております。

<https://www.facebook.com/groups/413767992078030/>

Thank you for your supporting.

TECHLIFE SG Pte.Ltd. : <http://www.techlife.sg/>